

Welcome to Sumitomo Hospital
内科専門研修のご案内



このプログラムの特徴

一般財団法人住友病院の内科専門研修プログラムの魅力は、複数の大学と関連する先端急性期病院であることです。初期研修が修了する段階で、既に自身の進路を固めている人もいれば、まだ迷いのある人もいるでしょう。内科医として成長するためのGeneralな修練を積みながら、多くの大学の様々な気風に触れることができ、既にある程度進路を決めている場合には、その決意を固めることに役立つ一方で、まだ決めかねている人にとっても広く進路が開かれていることが特徴です。

大学院進学から研究的な色彩の強い進路希望にも、また臨床的修練から勤務医、開業医への進路希望にも幅広く対応し、大学にはない自由度を求める研修医にも柔軟な対応のできるプログラムです。

当病院では初期臨床研修医制度がスタートした平成17年から、既に今回新専門医制度で導入されている総合内科教育を基盤にした上で各専門内科の教育を行ってきた実績があります。その結果として、診療各科間の垣根が低く、内科系各科はそれぞれのSubspecialtyの専門医が在籍して高水準であるだけでなく、互いに良い協力関係にあるので、Generalな部分も良い雰囲気です。チームワーク良く機能しています。こういったチーム医療が背景にあるので、Subspecialtyの扱いかもかなり柔軟に対応します。希望専門課程だけに偏ることのない幅広い研修プログラムにしていますが、Generalな研修の充実の一方で、専攻医の研修進捗度と希望によっては、将来の進路として考えているSubspecialty部門に早い時期から関わることができるコースも用意していますので、専門課程への良いスタートが切れることになると確信しています。

目次

- 各年次到達目標 P.3
- 週間スケジュール P.4
- ローテートの選択例・専門研修施設群 P.5
- 専門研修の体制について P.6
- 各診療科の紹介 P.7~11

各年次到達目標

	内 容	専攻医3年 修了時 カリキュラムに 示す疾患群	専攻医3年 修了時 修了要件	専攻医2年 修了時 経験目標	専攻医1年 修了時 経験目標	※5 病歴要約 提出数
分 野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内 分 泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代 謝	5	3以上※2	3以上		
	腎 臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼 吸 器	8	4以上※2	4以上		3
	血 液	3	2以上※2	2以上		2
	神 経	9	5以上※2	5以上		2
	ア レ ル ギ ー	2	1以上※2	1以上		1
	膠 原 病	2	1以上※2	1以上		1
	感 染 症	4	2以上※2	2以上		2
救 急	4	4※2	4		2	
	外科紹介症例					2
	剖 検 症 例					1
合 計	計※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7)※3
症 例 数	※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める(全て異なる疾患群での提出が必要)。

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(上限80例、病歴要約14例)。

住友病院 内科専門研修 週間スケジュール（一例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日	
早朝		診療科カンファ (Subspecialty)				担当患者の病態に応じた 診療 オンコール 日当直 講習会・学会参加等	
午前	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	内科外来診療 (各診療科)	救急センター オンコール		内科外来診療 (Subspecialty)	各診療科 科内検査		
午後	入院患者診療	入院患者診療	院長回診	入院患者診療	入院患者診療		
	病棟回診		入院患者診療		入院患者診療		救急センター
夕方	G染色 カンファ		臨床集談会	新入院カンファ	セカンドコール		
	内科合同 カンファ		C P C 等		勉強会		
夜間	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直等						

住友病院内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。

- 上記はあくまでも一例の概略です。
- 内科および各診療科(Subspecialty)のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には、内科と各診療科(Subspecialty)等の入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコール等は、内科全体もしくは各診療科(Subspecialty)の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会等は各々の開催日に参加します。

ローテートの選択例

Aコース:基本ローテート

Bコース:内分泌代謝内科志望者の例

Cコース:サブスペシャリティ重点コース(腎臓・高血圧内科志望者の例)

<サブスペシャリティ重点コース>

※自由選択期間は麻酔科、放射線科等内科系以外の診療科の選択も可能とする。

連携病院でローテートする診療科が決まれば当院でローテート予定の当該診療科の期間を自由選択とすることは可能とする。

後期 1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	呼吸器内科			血液内科			消化器内科			循環器内科		
B	内分泌代謝内科		呼吸器内科		循環器内科		腎臓・高血圧内科		血液内科		神経内科	
C	腎内	循内	内内	神内	消内	血内	呼内	自由選択		内科系選択		

後期 2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	神経内科			内分泌代謝内科			連携病院					
B	連携病院						自由選択		消化器内科		内分泌代謝内科	
C	腎臓・高血圧内科						連携病院					

後期 3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	腎臓・高血圧内科			自由選択			志望診療科もしくは内科系選択(分割可能)					
B	内分泌代謝内科											
C	腎臓・高血圧内科											

住友病院 内科専門研修施設群(基幹施設と連携施設)

各研修施設の概要(平成28年12月現在、剖検数:平成27年度)

	病 院	病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	住友病院	499	9	26	17	21
連携施設	日本生命病院	350	5	21	11	13
	JCHO大阪病院	565	4	29	14	12
	北野病院	699	9	36	20	11
	関西電力病院	400	10	13	6	13
	大阪赤十字病院	1000	9	35	13	13
	松下記念病院	323	7	20	12	16
	桜橋渡辺病院	171	3	9	3	0
	大阪みなと中央病院	275	5	5	2	4
大阪中央病院	143	3	6	1	0	
研修施設合計		4425	-	200	99	103

住友病院での専門研修の体制

専攻医の環境

- 専攻医各個人に1つずつ座席とロッカーが貸与されます。
- 研修に必要なインターネット環境があります。各個人それぞれに1台のPC端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。
- 図書室は24時間使用可能です。100種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書がいるので文献検索も容易です。
- 一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- 院内のレストランは昼食、夕食に利用可能で、さらに病院からの補助があるので1食350～400円程度で質、量ともに満足できます。
- メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ハラスメント委員会が整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり利用可能です。
- 病院から徒歩10分の朝公園北側の寮(新築ワンルームマンション)に入居可能です。(平成30年12月竣工)

研修プログラムの環境

- 指導医は28名在籍しています。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(平成27年度実績6回)し、専攻医に受講を義務付けています。
- 研修施設群合同カンファレンスや各種研究会を定期的で開催し、専攻医に受講や発表の機会があります。
- CPCを定期的で開催(平成27年度実績9回)し、専攻医に受講を義務付けています。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(平成29年度開催実績1回)を義務付け、そのために院内開催しています。

指導医数

日本内科学会指導医28名	日本呼吸器学会呼吸器専門医2名
日本内科学会総合内科専門医22名	日本血液学会血液専門医5名
日本消化器病学会消化器専門医9名	日本神経学会神経内科専門医6名
日本循環器学会循環器専門医5名	日本アレルギー学会専門医2名
日本糖尿病学会専門医6名	日本リウマチ学会専門医2名
日本内分泌学会専門医3名	日本感染症学会専門医1名
日本腎臓学会専門医6名	日本救急医学会救急科専門医1名 他

血液内科

- 入院患者数は35～40名程度(年間延べ350名程度)と多く、悪性リンパ腫・白血病・骨髄異形成症候群・多発性骨髄腫・特発性血小板減少性紫斑病等多様で豊富な症例を経験できます。血液疾患、特に造血器悪性腫瘍の患者さんは長期間にわたる治療を必要とすることが多いので、病気を知るだけではなく、患者さんのバックグラウンドを知り、全人的な診療を行うことができるようになってください。これは、われわれ血液内科の診療方針であり、指導方針です。
- 末梢血および骨髄標本の鏡検カンファレンス、血液病理カンファレンスといった若手の先生向けの勉強会を行っており、教科書だけではなく実際に自分の目で見ていただくようにしています。また、血液内科のカンファレンスは看護師、臨床検査技師を含めた多職種で行っています。



内分泌代謝内科

- 全国レベルの糖尿病教育入院を経験できます。毎年450名前後の患者さんが全国各地から教育入院されます。指導スタッフも充実していて、生活習慣病の教育指導に関する勉強が十分にできます。
- 下垂体、副腎、甲状腺、副甲状腺などの内分泌疾患例も豊富です。興味ある症例を担当できます。
- 内分泌学会の認定教育施設は糖尿病学会の約半分、肥満学会の認定専門病院はさらにその1/3しかありませんが、住友病院は3つの認定が全て揃っているため、全ての分野の専門医の受験資格が得られます。(平成30年現在、大阪府：日本糖尿病学会認定教育施設75、日本内分泌学会認定教育施設35、日本肥満学会認定肥満症専門病院11)
- 学会・論文発表の指導にも熱心です。全国規模の学会総会の発表だけでなく、希望があれば英文論文の指導も行ってきました。(過去10年間で住友病院在籍研修医の書いた英文論文数14編)



腎臓・高血圧内科

当院の腎臓・高血圧内科は、検尿異常から腎移植まで、全ての腎臓疾患に対して高いレベルの診療を行っています。

多彩な疾患

IgA腎症や膜性腎症などの頻度が高い腎疾患に加えて、ANCA関連血管炎、HUS、SLE、アミロイドーシス、多発性嚢胞腎、種々の電解質異常など、多彩な疾患を経験することができます。

腎生検 腎病理

腎生検は年70件ほど行っており、腎病理から治療選択に至る過程を学習できます。

最新の治療

利尿薬やステロイドを使用した基本的な治療に加えて、LDLアフェレーシス、血漿交換などの血液浄化療法や、リツキシマブ等の各種生物学的製剤療法等、その時点での最新の治療を学ぶことができます。

3つの腎代替療法

血液透析、腹膜透析、腎移植の3つの腎代替療法の全てを腎臓内科医師にて行っており（ただし腎移植の手術自体は泌尿器科医師が行っています）、療法選択からその実際までを学ぶことができます。

難治性高血圧の診断と治療

降圧薬や食事療法での高血圧の管理に加えて、原発性アルドステロン症と褐色細胞腫を中心とした二次性高血圧の鑑別診断と加療ができるようになります。



膠原病・リウマチ内科

鑑別を大事に

当科には、原因不明の発熱、関節痛患者さんが紹介されてきます。当科では、診断へのアプローチと評価方法、すなわち詳細な病歴聴取と、身体診察、各種検査の見方について精力的に指導します。

幅広い症例

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、血管炎症候群やIgG4関連疾患、キャッスルマン病等、当科で診る症例は非常に多彩です。また、障害される臓器も、頭の天辺から爪先まで多岐にわたります。当院では、垣根を越えた連携体制（当院の最大の特徴です！）が整っており、各科との合同カンファレンス（月1回）を通じて、その疾患に対する理解をより深く極めることができます。

武器を知る

膠原病・リウマチ疾患の歴史は、治療薬とその副作用との戦いの歴史でもあります。ステロイドや抗リウマチ薬、免疫抑制剤、生物学的製剤、JAK阻害剤……各薬剤の使い方と注意すべき点について習得し、効果的に使いこなすことができるように指導します。



循環器内科

循環器内科によるこそ

当科では種々の循環器症例を経験するとともに、心電図、運動負荷試験、冠動脈CT・MRI、心臓カテーテル検査、ペースメーカー、心エコー、RI検査等、診断学の基礎も学んでもらいます。循環器救急に積極的に取り組んでおり、常時専門医がいますので、いつでも気軽に相談してください。

病棟では『Safety、Speedy、Simple、Smileの4S』をキャッチフレーズにがんばっています。責任のある行動をとることと自分なりに考えて診療に携わることを研修では重要視しており、2ヶ月間の研修では24時間患者さんのことを考えて過ごしてくればありがたいです。循環器救急での臨床経験も重要かつ必須ですので、緊急カテーテル検査などに研修医はオンコール体制のもと参加していただきます。内科専門医として意義深い循環器研修となるでしょう。



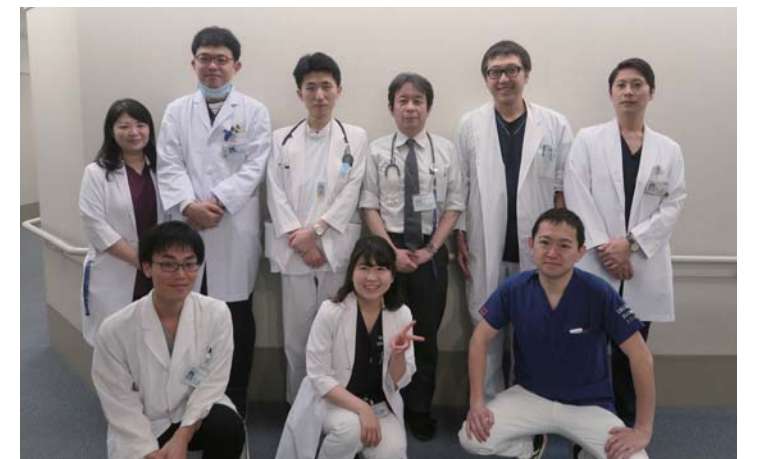
呼吸器内科

当院の呼吸器内科では、肺腫瘍、呼吸器感染症、慢性気道疾患、びまん性肺疾患、胸膜疾患、睡眠呼吸障害等の、多彩な各領域の疾患患者さんを、偏ることなく診療しているのが特徴です。

軽症肺炎や高齢者の誤嚥性肺炎については、一般内科で診療が行われており、当科ローテーション中は難病・希少疾患を含めて幅広く経験することが可能です。

診療科カンファレンスの他、呼吸器外科、放射線科との合同カンファレンス、膠原病・リウマチ内科と行う膠原病肺カンファレンス、呼吸器画像診断医の外部講師を迎えたCRPカンファレンス等、各種カンファレンスも充実しており、症例を経験しながら知識を得ることができます。

気管支内視鏡（EBUS-GS、EBUS-TBNAを含む）は年間200例弱施行しています。胸腔ドレナージなどの手技とあわせて、呼吸器内科医の専攻を考慮する先生方には、積極的に実施していただきます。



消化器内科

消化器内科では、消化器疾患患者さんの診察はもちろんのこと、内視鏡を中心とした技術を習得してもらいます。消化器内科領域は、上・下部消化管、肝臓、胆道、膵臓と多岐にわたります。そのため必要な手技もたくさん存在しますが、後期研修期間中には、上下部消化管内視鏡と腹部エコーは習得していただけます。病状によっては、外科や放射線科等他科との連携が必要な場合も多くあります。したがって迅速かつ的確に治療を進めるためには、幅広い知識と適切な判断が必要とされます。消化器がん等の終末期に立ち会う機会も多いので、患者さんやご家族に対する対応についても経験を積んでいただきたいと思います。



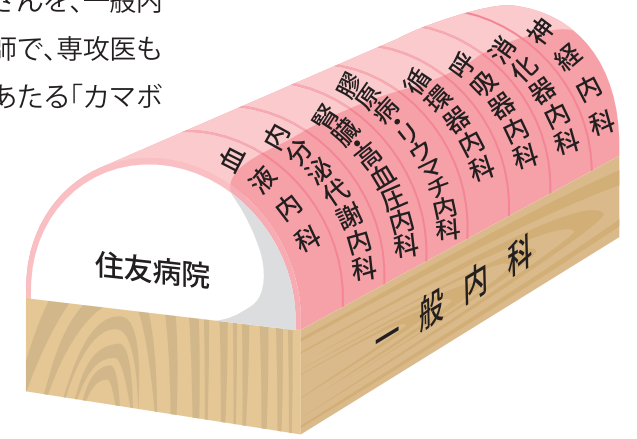
神経内科

住友病院神経内科は、昭和44年2月に関西で最初に開設されました。老舗の科として他院からの信頼も厚く、診断が難しい患者さんが多数紹介されるため、診断能力を高めるべく、スタッフ一同、日夜研鑽に努めています。電気生理学的検査、画像検査等、診断のために必要なものは、ほとんど院内でできるようになっており、それぞれの検査部門のスタッフの技量も優れ、高い信頼性を誇っています。特に電気生理学的検査に力を入れており、当院で研修すれば技術と考え方を習得して診断まで可能になります。神経内科は治療法がないと言われてきましたが、次々と治療法が確立されてきており、「治る神経内科」という言葉を学会でもよく使うようになっております。これから臨床を目指す方も、研究に希望を持たれている方も、神経内科には未来があると思います。皆さんの当院プログラムへのご参加を待ち望んでおります。



一般内科

発熱、倦怠感といった症状だけでは診療科が不明な患者さんを、一般内科で診療します。担当するのは内科系の診療科全科の医師で、専攻医も外来および入院に携わります。内科医の基本診療能力にあたる「カマボコ板」の部分分を分厚くするトレーニングになります。



感染制御部

全国レベルの感染対策と感染症診療の基本を学ぶことができます。
高い感染対策水準
当院の感染対策のレベルはかなり高く、例えばMRSA新規発生率の低さ、緑膿菌の薬剤感受性の高さ、手指衛生遵守率の高さ等の指標においては全国トップレベルにあります。
抗菌薬適正使用支援プログラム〈Antimicrobial Stewardship Program (ASP)〉
平成23年より病院全体で抗菌薬の適正使用に取り組んでいます。第三世代経口セフェム使用量は入院・外来含めて年間5例未満であり、ニューキノロンの処方も入院・外来ともに全症例を評価しており、当院では風邪や尿路感染症の第一選択薬として使用されることは稀です。このような取り組みによって抗菌薬使用量は大幅に減少するとともに、血液培養陽性者の死亡率は半減しています。

地域における役割
JCHO大阪病院、関西電力病院、大阪中央病院等と連携関係にあり、また北野病院、済生会中津病院、桜橋渡辺病院等と北区感染対策ネットワークに参加しています。当院はいずれにおいても中心的な役割の一角を占めています。
専門医取得可能な感染症診療
当院は感染症学会教育認定施設であり、感染症学会専門医・指導医である当部の医師の指導のもと、各科からのコンサルテーションとASP活動を行います。



快適な3年間の研修のための8つのポイント 住友病院プログラムのいいところ

1. 伝統のカマボコ板方式によるGeneralな内科研修で、分厚い総合診療力を獲得できます。
2. 全ての内科領域の専門医が存在しており、内科全分野のSubspecialty研修が並行して可能です。
3. 学会・論文発表なども丁寧に指導。英文論文を書いた先輩もたくさんいます。
4. 多数の大学と適当な距離間を保って連携しているので、大学院に進むことも、そうしないことも、希望次第でどちらも可能です。
5. 3年間の研修後、Subspecialty専門医取得のために継続研修の道もあります。
6. 連携病院が全て30分以内と近いので、研修期間中に転居不要です。
7. コンピュータ端末、座席、机、キャビネット、ロッカー、全て1人に1つずつ支給されます。カルテの順番待ちはまったく不要で自分の席でスイスイと。
8. 300~400円で昼も夜もおいしく満腹になれる職員食堂があります。少し歩けば、おしゃれなお店もいっぱい。良い研修は良い食事から。

見学は大歓迎です。
お申込み方法は当院ホームページをご参照ください。

